

「今年もチャレンジ精神を」

新年度を迎えるに当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年、日本ではノーベル物理学賞で湧きました。というのも、20世紀中に実現困難といわれた青色発光ダイオード（LED）の開発に成功、量産技術を開発し、世界で初めて製品化にこぎつけた日本の研究者3人が受賞したことであります。学内においても学生・生徒諸君がいろいろなクラブ活動等を通して、非常に元気に活躍してくれ、喜ばしく思っています。そういうことと併せて今年も新しいものにチャレンジし、取り組み、出発してほしい。

ノーベル賞の基準は「人類への貢献」となっていますが、今回の青色発光ダイオードのように世界でどれだけ役立つかというものに次第に、目標、対



後藤淳理事長

象も変わってきています。そういうことで先生も色々な所で役に立つことを頭に入れて研究、学生の指導に取り組んでいただきたい。人間社会がそれによって幸福になるような筋道がつけられていくことが大事であるといえます。また、職員の皆さんも、新しい27年度を迎える準備等で忙しいと思います。くわえて百年を超えた学園の新たな先を見据えて、それぞれの部署で頑張られることを期待しています。

「少子化」問題など教育界を取り巻く環境は年々、厳しさを増しています。皆さんで力を合わせ、新しい年が良い年になるように頑張ってください。

後藤淳理事長メッセージ

続いて一階フロアで後藤学長が挨拶、「2号館、5号館の建て替え計画を検討する中で、新しく一つの建物として建築することになりました。二階フロアは全学、大学院の共用スペースとして活用してもらおうよう設けました。本学ではいろいろな学科でロボット研究が進められています。学

名古屋電気学園大学八草キャンパスで建築していた新2号館（仮称）が完成、竣工式が一月五日、学園、大学関係者ら約八十人が出席して行われました。はじめに同館正面玄関前でテープカットがあり、後藤泰之学長と井上和幸清水建設名古屋支店長の二人が録を入れました。



完成した新2号館。南側から

の拠点として、情報発信の場としてロボットミュージアムも設けました。この素晴らしい空間を大いに活用して学生の教育、研究に活かしていただきたい。今後、



竣工の挨拶をする後藤泰之学長

後藤学長は「三年後には二〇一八年問題がやってまいります。ここ数年十八歳人口は安定してきましたが、いよいよ二〇一八年からは大幅に減ってくるという状況です。本学はどういう取り組みをしなければならぬか。伝統を継承しつつも教育力の強化、研究の活性化、社会貢献、こういった諸課題に大学・学園の教職員が一丸となって着実に取り組んでいく必要があります」と述べました。

後藤泰之学長は一月五日、新たに完成した新2号館地階ギャラリーで行われた学園・大学の仕事始めで、教職員約三百人を前に年頭の挨拶をしました。

仕事始めも新館で

2号館、5号館を解体、5号館跡には新しい食堂も作られます。本学の環境整備をこれからもしつかり進めていきたい」と述べました。 〓 関連2面



愛知工業大学 愛知工業大学情報電子専門学校 愛知工業大学名電高校 愛知工業大学附属中学校

目次:	
ロボカップ開催	2
各設置校で入試	3
新しい有機電池	4
愛名会が企業展	4
記念碑デザイン	6
専門学校単位制	7
高校バレー復活	7
木造選手が優勝	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel (0565) 48-8177

新2号館（仮称）完成

世界卓球選手権 吉村、吉田選手が出場
大学男子卓球部の吉村真晴選手（経営学科三年）と吉田雅己選手（同二年）の二人が今春の世界選手権蘇州大会の日本代表として選ばれました。 〓 記事8面

ロボットミュージアムも



新2号館のテープカットをする後藤泰之学長[㊟]と井上和幸清水建設名古屋支店長

新2号館が完成

八草キャンパスに完成した新2号館(仮称)は、昨年十二月に地鎮祭を行い、建築が始まりました。旧セントラル食堂を解体した跡地に鉄骨・鉄筋コンクリート造り地上六階、地下二階建てで、延べ床面積は約八七〇〇平方メートル。地下一、二階には吹き抜け空間のグランドギャラリーもあり、建築学科のアトリエ、製図室などが設けられました。南側は広場の向こうに鉦徳館を望み、広々とした空間が広がります。一階フロアには本格的なロボット



新2号館地階に整備されたグランドギャラリー

ミュージアムが整備されます。二階は事務室、三、四階は建築学科、五、六階は

ロボカップジャパンオープン

来春、本学で開催

「ロボカップジャパンオープン2016愛知」が来春、本学八草キャンパスで開催されることが決まりました。学内に山田英介副学長を委員長とする準備委員会が発足しました。本学での開催は初めてで、長年取り組んできた口

ポットを中心とした「ものづくり」教育を広くアピールするとともに、一般市民にも公開することで社会貢献に寄与する目的です。計画では平成二十八年三月二十五日から二十七日の三日間、鉦徳館はじめ新2号館、A I Tプラザ、1号



ロボットミュージアム案内板

電気学科の研究室が入ります。新館では、省エネ対策として照明はすべてLED器具を採用、空調や日射制御の構造も取り入れていきます。キャンパスの中央部に位置していることから防災対策拠点(サブ)としての機能を持たせ、自然エネルギーを利用した直流給電の研究も行います。

盛況にロボット交流会
学園の第三回ロボット交流会が二月十一日、若水キャンパスの淳和記念館で開催されました。愛知工業大学、愛工大名電高等学校、愛工大附属中学校が共催するロボットの総合的なイベントで、ロボット好きの多くの子どもたちでにぎわいました。

自律型ロボット競技会(レスキューコース)は、はじめ高校専門学科一年生徒によるロボットデザインコンテスト、大学の各研究室による「A I T 鉄人11号」やE T ロボットなどのデモンストレーション、からくり

館などを会場として開かれます。またロボカップジュニアは二十六日、二十七日に行われます。競技種目は平成二十六年の大会と同種目で検討し、今後、本学とロボカップ日本委員会と組織するロボカップジャパンオープン実行委員会が協議します。

来場者は海外も含め、シニア、ジュニアの参加者、見学者合わせて1万人規模とも言われています。

人形の展示などがありました。

競技会には名電高校生、附属中学生のほか本山キャンパスで開講されている少年少女ロボット教室の受講生も参加しました。成績は次の通り。

- 【小学生の部】①藤田剛大(ロボット教室) ②高坂優佑(同) ③河口晋一郎(同)
- 【中学生の部】①村田悠斗(同) ②齋藤知藝(附属中)
- ③山本修太(ロボット教室)
- 【高校生の部】①小澤尚也、加藤悠也(名電高校) ②西脇隼也、仲根昂太郎(同)
- ③山口健輔、館冬冨、今津健登(同)



ロボット交流会の表彰式に参加した児童生徒たち

設置校で入試相次ぐ

学園設置校の一般入試は一月二十四日、愛工大附属中学校を皮切りに相次いで行われました。

附属中 倍率六・三倍

高校普通科 九・九倍

附属中の入試は二十四日が奨学生入試、二十五日が第一回入試で、定員百五人に対し、両日合わせ六百六十四人が受験、倍率は六・三倍でした。両日とも早朝から父母に伴われた児童たちが続々と訪れ、塾の先生の激励を受けながら試験会場に入っていきました。各教室では監督の先生から受験上の注意を聞いた後、国語、理科、社会、算数の順に問題に取り組みました。



志願者数が愛知県内私立高校でも有数の名電高校の入試は二月四日、北校舎、南校舎をいっばいに使って行われました。志願者数は普通科が三百二十七人の募集に対して三千二百二十五人で倍率は九・九倍。科学技術科・情報科学科は二百四十人の募集に対して四百五十三人で倍率は一・九倍でした。マンモス会場の喬徳館（体育館）でも受験生たちは緊張した表情で、開始直前まで参考書に



目を通す姿が見られました。試験は国語、数学、英語、理科、社会の順に行われました。

大学志願者⁶⁰⁰人超す

愛知工業大学の前期日程A方式（記述式）は一月二十七、二十八日、同M方式（マークセンス式）は二十九日の三日間続けて行われました。八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか地方会場は新設された豊橋会場のほか岐阜、四日市、津、浜松、静岡、金沢、富山、松本、岡山、福岡の計十一カ所で行われました。八草キャンパスでも早朝から受験生が訪れ、10号館入り口で教室を確認して受験会場へ入り、緊張し



試験問題の配布を受ける受験生たち。上から附属中、名電高校、愛工大八草キャンパス

た表情で問題に取り組んでいました。

前期日程は三学部七学科十四専攻の募集人員六百四十八人に対して志願者総数は昨年より約七百人多い六千二百九十六人でした。なお土木工学科に新設される防災土木工学専攻は二十六人の募集に対して志願者は二百十九人でした。専門学校で自己推薦入試

専門学校の一般入試は昨年十一月三十日から今年三月二十六日まで計五回実施しています。最終日には今回初めて、作文と面接による自己推薦入試も行われ

ます。専門学校から7人大学編入へ編入する学生は七人になりました。愛知工業大学へは計六人で、工学部機械工学専攻が一人、同電子情報工学専攻が一人、情報科学部コンピュータシステム専攻が四人となっています。このほか豊橋技術科学大学へ一人、編入学します。編入学者の激励会が一月二十七日、同校内で開かれ、稲垣慎二校長が激励しました。

後藤すゞ子先生奨学金交付 学園は一月二十七日、「後藤すゞ子先生奨学金」を大学工学部学生の母親に交付しました。

元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられている奨学金は、父親の死去、失職など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。

交付式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之副理事長・学長が母親に奨学金を手渡しました。後藤副理事長は学生に「この先まだまだありますが、挫けないで勉強に専念してお母さんを助けるように頑張ってください」と励ましの言葉をかけていました。交付には井研治副学長ら大学、学園幹部も立ち会いました。



母親に奨学金を手渡す 後藤泰之副理事長・学長

「有機二次電池」研究 「ニュートン」が紹介

大学応用化学科の森田靖教授（物性有機合成化学）が取り組んでいる、新しいタイプの「有機二次電池」の研究が科学雑誌「ニュートン」四月号の特集記事の中で紹介されました。

特集記事は「進化をつづける電池」と題し、現代人の生活に欠かせないスマホ・携帯電話やデジタルカメラ、ノートパソコンの電源となっているリチウムイオン電池や次世代電池を詳しく解説しています。

この中で、森田教授が開発している電池は、環境保護の観点からリサイクル不要な理想的な電池となる可能性を秘めているとして取り上げられました。電池の構成要素である電極にレアメタル系ではなく有機材料を使うという、新しい発想です。究極的には二次電池



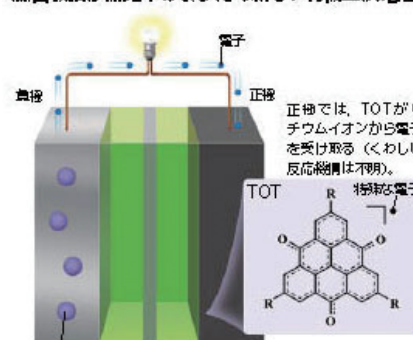
森田靖教授

として何度も使った後、普通のゴミとして捨て、燃やすことができません。例えば電気自動車や普及して電池が産業廃棄物として大量に捨てられると、社会問題にもなりかねません。こうした事態を未然に防ぐことも可能になります。

このため森田教授らはTOT（トリオキソトリアンギユレン）という新しい分子を世界で初めてつくり出しました。これは炭素を中心に構成される有機物で、4つの電子をためこむことができます。特徴があります。

現在、TOTを電池の正極に使い、負極には金属リチウムを使い、TOTの性能について実験を重ねています。現在のところ、通常のリチウムイオン電池に比べ、同じ重さあたりで一・三〜三倍の電気容量があると計算されています。

森田教授が開発中のまったく新しい有機二次電池



現在、真鍮に金属リチウムを挟んで電池を組み上げ、TOTの正極としての性能を評価している段階だ。現在のところ、通常のリチウムイオン電池より同じ重さあたりで1.3〜3倍の電気容量があると計算されている。TOTは「中性ラジカル」という、特徴的な電子（不対電子）をもつ分子だ。分子内に四つの電子をためこむことができる新しい有機物である。

(© ニュートン プレス)

森田教授「有機合成化学の新たな展開」

森田教授は今回の研究成果について、「二次電池活物質への応用は、新規な物質を自在に組み立てていくことができる有機合成化学の新たな展開の一つです。未知の分子の設計や合成に興味を持ってもらえる学生さんを増やしたいと思っています」と話しています。

森田教授は現在、独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業 CREST の研究代表者であり、本年度から本学で、カネカやトヨタ自動車などの企業研究者と共同でこの「有機二次電池」や「太陽電池」の開発に取り組んでいます。

愛名会企業展を開催

455社が出展 学生「手ごたえと不安と」

学園の後援組織「愛名会」の会員企業が出展する学園企業展が三月二三日、大学八草キャンパスの鉦徳館（体育館）で開かれ、来春卒業する学生の就職活動が本番を迎えました。今年から就職活動の解禁が三月月遅い三月一日からとなり、昨年より半月遅い開催とな



担当者から会社の説明を聞く学生たち

生たちは待ちかねたように各企業を回り説明を受けていました。機械学科の女子三年生は「自動車や工作機械関連の中小メーカーを志望しています。結構いい手ごたえを感じますが、やはり不安も大きいので早めに決めたい」と意欲を見せていました。一方、毎年出展し本学生を過去十一人採用しているという東海市の素材メーカーの担当者は「解禁が遅くなった分、学生数がすごく多いように感じる。いい人材を確保したい」と話していました。

りました。出展企業は両日の午前、午後の部の四回に分かれ、計四百五十五社が参加、学生は二日間で延べ三千七百人が訪れ、期待を持って各社ブースを回っていました。

開会式の後、入場時間になると、リクルート姿の学

景気回復に伴って「売り手市場」とされる中、本学への求人は三月一日現在、六千六十六社で昨年に比べ約一割減っていますが、就職スケジュール変更に伴う影響とみられ今後プラスに転じる見通しです。本学キャリアセンター長の渡辺修教授は「後ろ倒しで就活期間が短くなったので学生はタイミングを失しないよう意識して取り組んでほしい」と話していました。

ノーベル賞授賞式に参列して

大学総合技術研究所所長
澤木宣彦電気学科教授

2014年ノーベル物理学賞は青色LEDを開発し白色LEDという21世紀の光を生み出した赤崎勇先生（名城大学終身教授・名古屋大学特別教授）、天野浩先生（名古屋大学教授）、中村修二先生（カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授）の3人に与えられました。筆者は縁あってこの度の授賞式に招かれました。

ノーベル賞授賞式はこの賞を創設したA.ノーベル氏の命日に当たる12月10日と決められており、その日を挟む一週間がノーベルウィークとされ、12月8日の記念講演会とコンサート、12月9日ノーベル財団によるレセプション、12月10日授賞式と祝賀晩餐会など様々な行事が催されました。



記念講演会に臨む左から濱口道成名古屋大学総長、澤木宣彦本学教授、西永頌元豊橋技術科学大学学長

記念講演会はストックホルム大学の講堂で行われました。ノーベル財団の会長の挨拶と推薦委員会委員長の受賞者の紹介の後、赤崎先生、天野先生、中村先生がそれぞれの立場で研究の経過と今後の抱負を述べられました。三人の先生は共に「研究開発は大変な困難を伴うものだったが、目標を失わず頑張った」と苦勞の末に今日の栄光があることを強調されました。

日本大使館のレセプションを挟んで、その夜に行われたコンサートにはスウェーデン国王も参列され、スウェーデン国歌の斉唱から始まりました。新進気鋭の指揮者A.ネルソン氏は1978年生まれの36歳で、若さと力にあふれ、ベートーベンの交響曲7番は今まで聞いたことのない力のみなざる演奏でした。天野、中村両先生が20～30歳代の若い頃に大きな仕事をされたことをお祝いするような誠にすばらしいコンサートでした。

10日の授賞式には男性は燕尾服着用が求められ、約1300名の参列者が正装して会場となる

「苦勞の末の栄光」を強調

授賞の瞬間 筆者も身震い

長い冬の夜、LEDで明るく

コンサートホールに集まりました。国王初め王室の方々が列席され、受賞者の家族の方々や招待者の見守る中、ストックホルムロイヤル交響楽団の演奏を背景に、A.ノーベルの胸像の前で11名の受賞者が一人ずつ国王からメダルと賞状が手渡されされました。最初に物理学賞を受賞される赤崎先生がメダルと賞状を受けられましたが、客席で見守る筆者も自分が賞を頂いているような錯覚を覚え身震いました。とても良い授賞式でした。

授賞式終了後、参加者はそのままバスに乗り込んで、祝賀晩餐会会場に向かいました。晩餐会はストックホルム市庁舎の「青の間」で行われました。1923年に完成したというこの「青の間」は建設途上の赤煉瓦造りの壁の色があまりにもきれいだったため青色にするという当初計画を変更したとのことで、スウェーデン国旗の青色にはなっていませんでしたが、今回のノーベル賞が青色LEDであり、偶然とは言え、いい会場となりました。会場片隅にはA.ノーベルのレリーフが飾られ、祝宴を見守っているようでした。



ベルツェリー公園に飾られたヘラ鹿のLEDモチーフ

ストックホルムの冬の夜は早く、日没は14時20分でしたから、公式行事の多くは夜の開催となりました。気温は思いの外暖かく、雪ではなく小雨の多い一週間でした。低い太陽が現れると、第2次世界大戦の戦火を逃れ中世の面影が残る町並みを照らし、北欧都市の特有の美しさを醸しだしました。折しもクリスマス前のアドベントの頃で、街はLEDを使った飾り付けが多く見られ、長い冬の夜がLEDで明るくなっていると感じました。

赤崎先生、天野先生と研究室を共にした澤木宣彦教授が授賞式に出席しました。そのレポートを寄せて頂きましたので、一部を紹介します。

感謝状贈呈の後、松井初江さん（前列中央）や後藤理事長（その右）を囲み、一同で記念写真を撮りました



故松井先生夫人が 吹奏楽部へドラム

学園が感謝状

名電高校吹奏楽部の顧問を務めた故松井郁雄先生の妻、松井初江さんから吹奏楽部にドラムが寄贈され、学園は二月二十四日、初江さんに後藤淳理事長から感謝状を贈りました。これまでドラムは一台ありましたが、今回寄贈されたドラムは一回り大きいドイツ・レファイマ社製で、湿度の関係から若水キャンパス淳和記念館の練習場で、なめした皮革を張り付けて組み立てられました。

感謝状の贈呈式は記念館三階ホールに一、二年生部員百三十人が勢ぞろいし、松井先生の遺影が飾られた中で行われ、後藤理事長は松井先生の思い出や人柄を紹介しながら「いつまでも大事に使って全国にその音を響かせてください」と話しました。初江さんも「主人が亡くなって十年。楽しんでそこに楽譜を広げている姿はいまでも忘れません。名電の吹奏楽部で勉強させていただいたことを誇りに思っていると思います」と



松井初江さんに感謝状を手渡す後藤淳理事長

お礼を述べました。

この後部員たちは新しいドラムで打楽器演奏を披露、初江さんにお礼の寄せ書きや花束を贈りました。現顧問の伊藤宏樹教諭は「これから先何十年と松井先生の魂のこもった演奏を続けていきたい」と話しました。

吹奏楽部は昭和三十年に同好会として発足、三十二年にクラブに昇格しました。三十八年に合唱の指導をしていた松井先生を迎え、三年目から全国大会に出場、四十八年に全国コンクールで念願の金賞に輝きました。歴代の指導者が上手にバトンタッチして全国最多出場を誇り、現部員は百八十人を超えています。

ピンポン外交記念碑 デザインを発表

ピンポン外交を記念し愛知県体育館（名古屋市中区）に設置されるモニュメントのデザインが三月三日、愛知県から発表されました。当時、日本卓球協会会長としてピンポン外交の礎を築いた故後藤錚二前学園理事長の写真も刻まれています。

モニュメントは縦三メートル、横七メートルの陶板で、水墨画をイメージしたモノトーンを



ピンポン球が飛び交うピンポン外交モニュメントの全体イメージ

基調とし、日中の書家二人が「平和」「友好」「愛」「夢」の文字を揮毫。全体を愛知県出身の現代美術家水谷イズルさんが担当、日米中三つの国旗をモチーフとしたピンポン球が縦横に飛び交い、多国間の対話が弾むさまを表現しています。

左右にはステンレス製銘板がはめ込まれ、左側では大村秀章知事の挨拶文や解説、右側では第三十一回世界卓球選手権大会に纏わる写真が八枚刻まれています。この中で、後藤前理事長の写真は中国チーム参加の交渉に訪れた北京で周恩来首相と握手する貴重な一枚で、普段は淳和記念館メモリアルギャラリーに保管・展示されています。

陶板は正面外壁に設置され、五月に当時の大会参加者や米中の外交関係者約百人を招いて除幕式が行われます。



銘板に刻まれた後藤錚二前理事長と周恩来首相の写真

専門学校が単位制を導入

専門学校は新年度から単位制を導入します。「多様なニーズに応じた多様な職業教育が必要」との改正文部科学省令の施行に基づき、愛知県内の専修学校でも先行的ケースとして実現します。

学年制と異なって、単位制は一定の単位数の修得に

よって卒業資格が得られるものです。このため、メリットとして▽働しながら自分のペースで学べる▽留年がない▽大学へ編入しやすい▽再チャレンジで将来が広がる―などが挙げられています。特に学年制だと、一科目でも不合格になると留

マイペースの学習可能に

年となり、翌年全科目を再び受講する必要がありました。単位制では不合格科目だけを履修すればよいこととなります。

単位制では学生の履修の仕方も様々に考えられるため、専門学校は学生のニーズに対応した指導体制も整え、学年制と並行して、単位制を充実していきます。

名電高校バレーボール部 春高バレー ベスト4



3位のメダルをかけてもらう高校バレーボール部員たち

成績でした。残念ながら準決勝で大村工（長崎）に敗れ、初の決勝進出はなりませんでしたが、ベスト4は学校の歴史に並ぶタイ記録、北川祐介監督の下、「名門復活」へ確かな一歩を踏み出しました。

県大会で強豪の星城高校にストリート勝ちし掴んだ愛知代表の座、一月五日から東京体育館で始まった全国大会も準々決勝まで快進撃を見せていました。しかし十日の大村工戦はサーブミスやレシーブの乱れが相次ぎ、得意のブロックやセ

名電高校バレーボール部は全日本バレーボール高校選手権（春高バレー）に出場、ベスト4進出という好

名門復活

次ぎ、得意のブロックやセ

ンター攻撃が通用せず完敗、「雰囲気にもまれた」（中根主将）と本来の力を発揮できませんでした。

二十年ほど前はインターハイや国体の上位校として全国的に活躍しましたが、一時期休部もあり低迷しました。しかし北川監督の下、部員が一丸となって名門復活を目指し、今大会も目標のベスト8をクリアしました。

北川監督は「名門復活をなし遂げ、今大会は新しい名電の第一歩。目指すところは優勝だが、ただ勝てればいいというものではない。高校生らしい生活を送ってさらに全国で頂点を取ればそれに越したこと

はない。まずはメンタル面を教え、ブロックやスパイクなど技術的なことも伝え、卒業する三年生に對しては「彼らには常に人間的成長を求め、後輩たちに何を残せるか話し合ってきた。最後にこんなに素晴らしい結果を残してくれ感謝しています」とねぎらいの言葉を寄せていました。

危険物取扱者試験

過去最高20人 乙種全類取得

名電高校では今年、科学技術科の生徒を中心に三年生二十人が危険物取扱者試験の乙種全類を取得しました（専門学科現三年生百九十七人の一割）。同校では「資格を取りたい」という意識の高まりを受け、数年前から合格者が二桁を超え、今年は過去最高となりました。二年生も数人乙種全類取得しています。

危険物取扱者試験は消防法に基づく国家試験で都道府県ごとに消防試験研究センターが実施、年間六、八回行われ、合格者には知事

から免状が交付されます。甲、乙、丙の三種あり、甲種を除いて誰でも受験できます。乙種は危険物の種類によって一類から六類まであり、一年生から少しずつ取得していく生徒が多く、乙種全類取得すれば甲種と同じ危険物を取り扱えることとなります。

同校では危険物取扱者試験などの資格試験に挑戦する生徒も多いのですが、受験指導にあたる野崎敏広教諭は「一回の試験ですべて取得できるものではないにも関わらず、このような取得者数をあげることができたのは、生徒たちが計画的かつ継続して勉強した結果だと思えます。担当者としてとてうれしく思っています。今後さらに取得者数を増やせるように指導できればと思います」と話しました。



合格した皆さん

今春の世界卓球選手権蘇州大会

吉村、吉田選手が出場

大学男子卓球部の吉村真晴選手（経営学科三年）と吉田雅己選手（同二年）の二人が今春の世界卓球選手権（個人戦）に日本代表として選ばれました。

吉村選手は一月の全日本選手権混合ダブルスで、一昨年、昨年に続き石川佳純選手（全農）とペアを組み、念願の初優勝を果たし代表に選出されました。大学一年時には団体戦、二年時には個人戦に出場しており今回で三回目になります。

吉田選手は昨年十二月に開催された世界卓球日本代表選考会の男子シングルス



全日本選手権の混合ダブルスで優勝した吉村選手と石川選手（日本卓球協会提供）

で優勝し、代表の座を獲得しました。順当にランキングを上げている選手として期待されています。

世界選手権は四月二十六日～五月三日、中国・蘇州



日本代表選考会のシングルスで優勝した吉田選手（ニッタクニュース提供）

で開かれ、吉村選手は石川選手との混合ダブルス、吉田選手はシングルスにエントリーします。鬼頭明監督は「吉村には経験を活かしてメダルを目標に頑張ってもらいたい。その力は十分にあると思います。吉田は初出場だが、国際大会の経験も豊富で今シーズンの調子も良い。台風の目となる

活躍を期待しています」と話していました。

本学から多くの選手が世界選手権に出場しています。中でも故長谷川信彦選手は昭和四十二年のストックホルムで男子団体、シングル、混合ダブルスで、また四十四年のミュンヘンでは本学の杉本（旧姓今野）

後藤杯卓球1200人余熱戦

第四十四回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オーブン》が一月十七日、十八日、一宮市総合体育館で開催され、二十九都道府県から千二百四十一人の子どもたちが参加、二日間にわたって熱戦を繰り広げました。ピンポン外交に尽力した

附属中卓球部・木造選手 世界サーキットで優勝



グローバルジュニアサーキットファイナルで優勝した木造勇人選手

附属中卓球部の木造勇人選手（三年）は一月下旬にパラグアイで開かれた2014グローバルジュニアサーキットファイナルの男子シングルスで優勝しました。この大会はジュニアツアーのポイントランキング上位者で、最低でも二大陸以上での大会に出場して

いる者だけに、出場権が与えられます。各国二人まで、十六人しか出場できません。予選リーグで上位二人が勝ち上がり決勝トーナメントが行われます。

木造選手は日本勢同士の戦いとなった決勝で龍崎東寅選手（JOCエリートアカデミー）を4-3で破り優勝を決めました。

監督の真田浩二教諭は

女子選手との混合ダブルスで優勝、活躍しました。

一方、両選手は七月に韓国で開かれるユニバーシアードの日本代表にも選ばれました。吉村選手は二月に行われた国内選考会で一位となり、吉田選手は強化委員会の推薦を受け、代表の座をつかみました。

元日本卓球協会会長、前学園理事長の故後藤鉦二先生を偲び、愛知県卓球協会（後藤淳会長）が昭和四十七年から毎年開催しているもので、第二十七回からは一般・ジュニアとは別開催となり、中二以下のカテゴリー、小六以下のホープス、小四以下のカブの三つの部に分かれ、全国の子どもたちが卓球の腕を競っています。

開会式で松原曉美副会長が選手を激励しました。

名電高校元校長の長尾正男氏が三月二日、死去しました。八十七歳でした。



尾氏は昭和五十九年四月から四年間、第六代校長を務めました。葬儀等は親族のみで行われました。